

算数科の目標

各学年の目標



内容のまとめりごとの評価規準

教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。

- ① 算数科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

評価の進め方

- 1 単元を作成する
- 2 単元の目標を作成する
- 3 単元の評価規準を作成する
- 4 「指導と評価の計画」を作成する
- 授業を行う
- 5 観点ごとに総括する

○算数科の「内容のまとめり」の特徴を踏まえ、「内容のまとめり」を分割したり組み合わせたりして、単元を作成する。

○当該学年の「学年目標」と「内容のまとめり」で示された内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を作成する。

○「内容のまとめりごとの評価規準」から「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を作成し、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」をもとに単元の評価規準を作成する。

○1～3を踏まえ、具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価方法を計画する。

○どのような評価の資料（児童の反応や作品など）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

○4に沿って観点ごとの観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

○集まった評価の資料やそれに基づく評価結果（A, B, C）などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

算数科の内容のまとめ

第3学年	第4学年	第6学年
<p>「A数と計算」</p> <p>(1) 数の表し方</p> <p>(2) 加法, 減法</p> <p>(3) 乗法</p> <p>(4) 除法</p> <p>(5) 小数の意味と表し方</p> <p>(6) 分数の意味と表し方</p> <p>(7) 数量の関係を表す式</p> <p>(8) そろばん</p> <p>「B図形」</p> <p>(1) 二等辺三角形, 正三角形などの図形</p> <p>「C測定」</p> <p>(1) 長さ, 重さの単位と測定</p> <p>(2) 時刻と時間</p> <p>「Dデータの活用」</p> <p>(1) 表と棒グラフ</p>	<p>「A数と計算」</p> <p>(1) 整数の表し方</p> <p>(2) 概数と四捨五入</p> <p>(3) 整数の除法</p> <p>(4) 小数の仕組みとその計算</p> <p>(5) 同分母の分数の加法, 減法</p> <p>(6) 数量の関係を表す式</p> <p>(7) 四則に関して成り立つ性質</p> <p>(8) そろばん</p> <p>「B図形」</p> <p>(1) 平行四辺形, ひし形, 台形などの平面図形</p> <p>(2) 立方体, 直方体などの立体図形</p> <p>(3) ものの位置の表し方</p> <p>(4) 平面図形の面積</p> <p>(5) 角の大きさ</p> <p>「C変化と関係」</p> <p>(1) 伴って変わる二つの数量</p> <p>(2) 簡単な場合についての割合</p> <p>「Dデータの活用」</p> <p>(1) データの分類整理</p>	<p>「A数と計算」</p> <p>(1) 分数の乗法, 除法</p> <p>(2) 文字を用いた式</p> <p>「B図形」</p> <p>(1) 縮図や拡大図, 対称な図形</p> <p>(2) 概形とおよその面積</p> <p>(3) 円の面積</p> <p>(4) 角柱及び円柱の体積</p> <p>「C変化と関係」</p> <p>(1) 比例</p> <p>(2) 比</p> <p>「Dデータの活用」</p> <p>(1) データの考察</p> <p>(2) 起こり得る場合</p>

算数科においては、「内容のまとめ」で示された内容の数が、学年や領域ごとに違いがあるため、指導する際の授業時数も「内容のまとめ」ごとに大きく異なる。

単元は、児童に指導する内容を適切にまとめて構成されるものであるため、「内容のまとめ」を幾つかに分割して単元とする場合やそのまま単元とする場合、幾つかの「内容のまとめ」を組み合わせる単元とする場合がある。

算数科における単元の特徴を踏まえ、単元の目標は、当該学年の「学年目標」と「内容のまとめり」で示された内容をもとに、必要な記述を抜き出して作成することになる。

単元名 あまりのあるわり算

3年学年目標

知識及び技能	数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の内容、量の概念、棒グラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする
思考力、判断力、表現力等	数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

内容のまとめり 第3学年 A 数と計算 (4) 除法 ※学習指導要領

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

(エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。

(オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

Step ②

算数科における単元の目標を作成する

- (1) 「知識及び技能」
- (2) 「思考力, 判断力, 表現力等」



「内容のまとめり」で示された内容をもとに、作成する。**文言の語尾を「～できる」**。とする。

ア次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

(エ) 除数と商が共に1位数である**除法の計算が確実にできること**。

(オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。

イ次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ) 数量の関係に着目し、**計算を日常生活に生かすこと**。

- (3) 「学びに向かう力, 人間性等」



学年目標 (3) で示された「学びに向かう力, 人間性等」の目標をもとに、作成する。

文言の語尾を「～している」。

学びに向かう力, 人間性	数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。
--------------	---

単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
⇒第3学年A (4) アをもとに作成
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
⇒第3学年A (4) イをもとに作成
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。⇒第3学年目標をもとに作成

1. 「内容のまとめり」をそのまま単元とすることができない場合があること
2. 学習指導要領の算数科の内容として示された文言の書き方が揃っていないこと

○具体的に書かれているので、そのままの文言でほぼ用いることができる場合

例 第1学年 A 数と計算 (1) 数の構成と表し方

(ア) ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること。

○抽象度を上げて書かれているので、そのままの文言では、評価規準として用いることができない場合

例 第6学年 B 図形 (1) 縮図や拡大図, 対称な図形

(ア) 縮図や拡大図について理解すること。

※何をどのように理解しているのか
評価する側にとって分かりにくい



このような場合は、評価規準を具体的に示す必要がある。

以上のことから、算数科においては

「内容のまとめりごとの評価規準」

↓ 上記2を踏まえて、評価規準の文言を具体的な書き方で表現を揃える

「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」

↓ 単元に合わせて、内容のまとめりをそのまま用いたり、分割したり、組み合わせたりして、単元の評価規準を作成する。

「単元の評価規準」

「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに，「観点ごとのポイント」を踏まえ，
「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を作成する

内容のまとめりごとの評価規準

内容のまとめり 第3学年 A 数と計算 (4) 除法

「知識・技能」のポイント

- ・ 除法の意味について理解し，それが用いられる場合について知っている。また，余りについて知っている。
- ・ 除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる。
- ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。
- ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。
- ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。

「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 数量の関係に着目し，計算の意味や計算の仕方を考えたり，計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしていると同時に，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。
- ・ 数量の関係に着目し，計算を日常生活に生かしている。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 除法に進んで関わり，数学的に表現・処理したことを振り返り，数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

具体的な内容のまとめりごとの評価規準

抽象的に示されている文言を具体化している

「知識・技能」のポイント

- ・ 包含除や等分除など，除法の意味について理解し，それが用いられる場合について知っている。
- ・ 除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる。
- ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。
- ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。
- ・ 割り切れない場合に余りを出すことや，余りは除数より小さいことを知っている。
- ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。

「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を，具体物や図などを用いて考えている。
- ・ 除法は乗法の逆算と捉え，除法の計算の仕方を考えている。
- ・ 余りのある除法の余りについて，日常生活の場面に応じて考えている。
- ・ 日常生活の問題を除法を活用して解決している。
- ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を，具体物や図などを用いて考えようとしている。
- ・ 除法の場面を身の回りから見付け，除法を用いようとしている。
- ・ 自分が考えた除法の計算の仕方について，具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。

「内容のまとめり」が幾つかの単元に分かれる場合の「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」

第3学年 A 数と計算 (4) 除法

内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能

- ・ 除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。また、余りについて知っている。
- ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。
- ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。
- ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。

具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能

- ・ 包含徐や等分徐など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。
- ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。
- ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。
- ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。
- ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。

単元 (わり算) の評価規準 (例)

知識・技能

- ・ 包含徐や等分徐など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。
- ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。
- ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。

単元 (あまりのあるわり算) の評価規準 (例)

知識・技能

- ・ 包含徐や等分徐など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。
- ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。
- ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。

単元 (大きな数のわり算) の評価規準 (例)

知識・技能

- ・ 包含徐や等分徐など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。
- ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。

単元名	あまりのあるわり算
-----	-----------

内容のまとめり	第3学年 A 数と計算 (4) 除法
---------	--------------------

1 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。 ➡第3学年A(4)アをもとに作成
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。 ➡第3学年A(4)イをもとに作成
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。 ➡第3学年目標をもとに作成

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含徐や等分徐など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。 ②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ②余りのある除法の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ②余りのある除法の余りについて日常生活の場面に応じて考えようとしている。

単元名 あまりのあるわり算

内容のまとめり 第3学年 A 数と計算 (4) 除法

3 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	あまりがある場合でも除法を用いてよいことや答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		・思①（活動観察、ノート分析）	・態①（活動観察、ノート分析）
2 3	あまりがある場合の除法の式の表し方や余りなどの用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）		1時～3時はあまりのある除法の意味について考え、第4時ではそれらの総括的な評価を行う。
4	等分徐の場面についてもあまりがある場面の除法が適用できるかを考える。		○思①（活動観察、ノート分析）	6時か7時のどちらか一方の授業で全ての児童についての情報を収集する。
5	割り切れない場面の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②（ノート分析）		
6 7	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。		・思②（活動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
8	学習内容の定着を確認する章末問題に取り組む。	・知①②③（ノート分析）		単元のまとめの段階で、学習内容が定着しているかを確認することが重要。
9	単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。 （評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ノート分析）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）

※指導に生かす評価の機会については「・」。

※総括の資料とするための評価として、全員の学習状況を記録に残すものは「○」で示している。